

原子力事業者とATENAの連携について

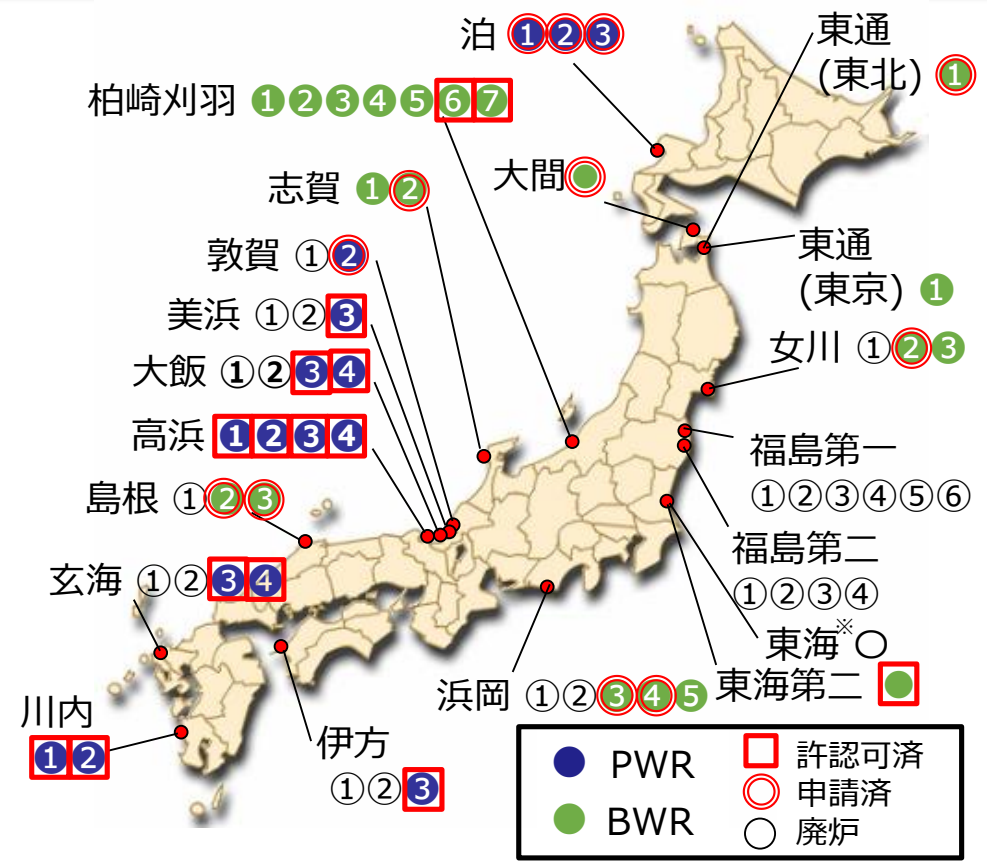
倉田 千代治

電気事業連合会 原子力開発対策委員会 委員長

中部電力（株） 代表取締役 副社長執行役員 原子力本部長

原子力発電所の再稼働の状況

- 新規制基準対応は道半ばであり、再稼働を果たしたプラントは9基のみ。電力需給、事業収支の両面において、厳しい状況が続いている。
- 日本において原子力発電は重要電源であり、安全確保を前提にプラントの再稼働ならびに再稼働後の利用率向上に注力し、3E + S (※1)を達成する。
 - ※1 3E + S …エネルギーの安定供給、経済効率性の向上、環境への適合 + 安全性
- 原子力発電所の運転には、事業者の自律的かつ継続的な安全性向上の取り組みは不可欠。



新規制基準 許認可状況	PWR (●)	BWR (●)	合計
許可済 (□)	12	3	15
申請済 (◎)	4	8	12
未申請	0	9	9
合計	16	20	36

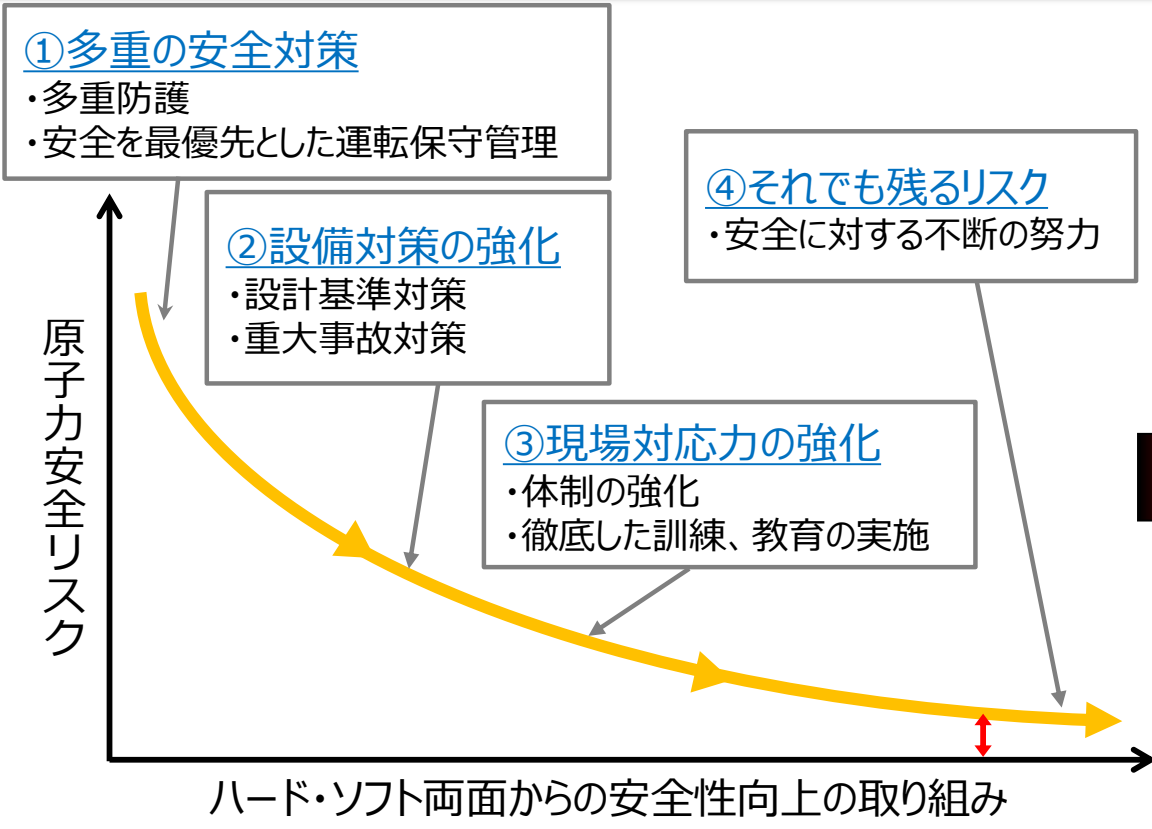
上記には建設中のプラント(3基)含む

廃止ユニットの 状況	PWR	BWR	その他	合計
廃炉 (○)	8	15	1※	24

※GCR (黒鉛減速・炭酸ガス冷却型)

安全性向上の取り組みの基本的な考え方

➤ 福島第一原子力発電所事故の反省として、原子力発電所の安全性向上のため、原子力発電所のリスクに向き合う仕組みの構築と、巨大地震や津波といった、発生した場合の影響が大きい外的事象への取り組み強化を進めてきた。



- 更なる安全性向上の取り組み
- 事業者の自主保安に関するパフォーマンス向上施策の実施
 - ・是正処置プログラム（CAP）の改善
 - ・現場観察(MO)の実施 等
 - 外部機関との連携による取り組み
 - ・PRA等のリスク情報を活用した安全性向上対策の実施（NRRCと協働）
 - ・ピアレビューの結果を踏まえた改善（WANO、JANSI等と協働）
 - ・**深層防護全体を俯瞰した効果的な安全対策の実施（ATENAと連携） 等**

リスクはゼロにならないという考えに基づき、規制基準を満たすことに留まらず、自ら安全性向上・防災対策充実を追求し、適切にリスクを管理すること（リスクマネジメント）が重要。

- 原子力発電所の共通技術課題解決のためには、ATENAと連携し、ATENAが要求する安全対策を確実に実施。
- 産業界の代表者としてATENAが規制当局と対話する際には、事業者は積極的に参画。

